

2017年香港の日本語学習者背景調査

The 2017 survey of Japanese language learners in Hong Kong

山下 直子、梁 安玉、劉 礪志、李 澤森、李 夢娟
香港日本語教育研究会

1. はじめに

日本政府観光局（2017）によると、香港の訪日旅行者数は2016年、1,839,193人（前年比伸び率20.7%）で過去最高を更新した。

香港日本語教育研究会（以下、研究会）が香港の日本語学習者を対象とした調査（木山ほか 2011、宇田川ほか 2014、山下ほか 2016 など）における香港の日本語学習者の学習目的は「日本に旅行に行くため」という割合が上位であることは調査以来変化がない。

では、実際に日本語学習者にとって「日本旅行」と「日本語学習」はどのように関連しているのか。また、韓国語学習の人気等から日本語学習者の減少（国際交流基金2013、瀬尾ほか2012、宇田川ほか2013,2014）や日本語学習の継続について課題が挙げられている。そこで、日本旅行と日本語学習の関係、日本語学習の継続要因、日本語学習の価値や意義についての学習者意識を明らかにしたい。

2. 先行研究

2.1 日本語学習と日本旅行

瀬尾（2011）は、日本語生涯学習者に対する調査において、日本語学習を始めたきっかけとして日本旅行を概念化している。日本旅行の際、デパートでの買い物で店員は英語が全然わからず、日本語を勉強したいと思ったというインタビュー結果を報告している。また、山下ほか（2017）では、質問紙調査において「日本旅行をするとき日本語がわかると役に立つ」ことが学習動機の大きな要因であり、年少者、成人と年齢を問わず最も多い回答であったことを明らかにしている。日本語学習と日本旅行が目的や動機づけにおいて深い関係性があることはわかった。しかし、これまで香港の日本語学習者を対象にした調査において、日本旅行における具体的な日本語使用場面や機会に関する調査は管見の限りない。どのような場面で関係が深いのか。

2.2 日本語学習者の減少対策と継続要因

香港において日本語学習者の減少の一因として韓国語学習の人気の考えられていた（瀬尾ほか 2012、宇田川ほか 2014）。しかし、瀬尾（2016）によると、韓国語学習人気の日本語学習の継続に直接影響しているものではないと分析している。

瀬尾ほか（2012）では、生涯学習機関において学習者減少の打開策を模索しなければならないと述べている。また、小玉（2017）も韓国語ではなく、学習者減少の対処方法を現行の日本語教育のなかから構築する必要性を述べている。

瀬尾（2011）は、日本語学習を続ける理由として「日本文化」、「日本語が理解できる喜び」、「つながり」、「日本語を忘れないため」を概念化している。具体的にどのようなものが日本語学習者の減少対策となり継続につながるのか。

2.3 日本語学習の価値と意義

板井（2001）ほか、これまで「趣味」としての日本語学習という報告がされ続けている香港において、その学習意義はどこにあるのか。山下ほか（2017）では、興味関心対象である日本旅行について「日本旅行をするときに日本語がわかると役に立つ」という学習動機の要因は実用的価値認識であると分析している。さらに「日本語を勉強すると世界が広がる」という期待的価値も明らかにした。しかし、これらの調査は先行研究をもとに作成した選択式の質問紙調査であった。学習者自らことばを選び日本語学習の意義について表現してもらう必要があるのではないか。

3. 目的

本調査は、以下3点を明らかにすることを目的とする。

- （1）日本旅行における日本語の使用機会はどの場面か
- （2）日本語学習の継続に必要なものは何か
- （3）日本語学習の意義とは何か

4. 調査方法

- 1) 対象者：2017年6月に研究会が実施した JLPT 応募者（N3、N4、N5 の応募者のみ）を対象とした調査活動のために集まった香港の日本語学習者
- 2) 調査方法：調査協力者は質問紙に記入する方法で回答し、研究会の担当者が回収する。質問紙は選択回答と自由記述回答式で、調査協力者が N3、N4、N5 レベルのため、質問紙は中国語（繁体字）で作成したものを使用した。
- 3) 集計方法：表計算機能のあるコンピュータープログラムにデータ入力し、集計した。中国語で書かれたものは日本語訳をした。

5. 集計結果

5.1 調査協力者

調査協力者は592人で、N3は232人、N4は237人、N5は123人である。レベルと年齢の内訳は以下の表1の通りである。

表1 レベル別年齢内訳

	N3	N4	N5	合計（割合）
8-11 歳	1	0	3	4 (0.68%)
12-17 歳	25	16	17	58 (9.80%)
18-22 歳	79	58	24	161 (27.20%)
23-29 歳	78	87	37	202 (34.12%)
30-39 歳	35	48	22	105 (17.74%)
40-49 歳	12	17	17	46 (7.77%)
50-59 歳	2	10	2	14 (2.36%)
60-69 歳	0	1	1	2 (0.34%)
	232	237	123	592

学習の場について、「学校」の科目として日本語を学習しつつ、語学学校などほかの場でも学習している調査協力者（以下、協力者）もいると想定されたため、複数回答可とした。民間の語学学校や塾が一番多いが、独学の割合も高い。

表2 学習の場

	N3	N4	N5	合計（割合）
1. 学校	32	26	12	70 (10.61%)
2. 民間の語学学校・塾	83	123	76	282 (42.73%)
3. 個人授業	11	20	12	43 (6.52%)
4. 通信教育	3	2	1	6 (0.91%)
5. 独学	132	85	42	259 (39.24%)

5.2 調査結果

5.2.1 日本旅行中の日本語の使用機会場面

「（日本にいったとき）、日本語を使うチャンスがありますか」という8項目の質問で、「とてもある」、「少しある」、「あまりない」、「全くない」の4つの選択肢から選んで答える。「1. 買い物するとき」、「2. 食事をするとき」、「5. 街中で（道を探すときなど）」の場面で日本語を使う機会が多い。N3の協力者はその3場面だけで

2017年香港の日本語学習者背景調査

なく、すべての場面において「とてもある」と答えている協力者が N4、N5 のより多い。一方、「6. コンサートなどイベントに参加するとき」、「7. 日本の友達と会うとき」、「8. 体験教室（和菓子作り、浴衣など）に参加するとき」の場面では日本語を使う機会は「全くない」という回答が多かった。

表3 日本語の使用機会場面

項目	レベル	とてもある	少しある	あまりない	全くない
1. 買い物するとき	N3	92	80	23	5
	N4	77	101	31	8
	N5	22	50	22	7
2. 食事するとき	N3	89	84	23	3
	N4	77	101	31	8
	N5	29	47	16	9
3. 移動する(交通手段を使う)とき	N3	48	55	74	23
	N4	27	59	88	43
	N5	8	27	44	22
4. 宿泊するとき	N3	48	74	56	22
	N4	29	80	75	33
	N5	11	34	41	15
5. 街中で(道を探すときなど)	N3	78	62	47	13
	N4	47	78	63	29
	N5	21	33	24	22
6. コンサートなどイベントに参加するとき	N3	28	20	41	109
	N4	13	29	43	132
	N5	7	7	19	66
7. 日本の友達と会うとき	N3	59	47	18	74
	N4	40	52	23	102
	N5	8	19	15	57
8. 体験教室(和菓子作り、浴衣など)に参加するとき	N3	47	51	36	64
	N4	21	60	56	80
	N5	6	24	22	48
9. その他	・ 交流プログラム、交通事故後の警察とのやりとり				
	・ 入国、短期留学、仕事				
	・ 博物館に見学に行く				

5.2.2 日本語学習の継続に必要なもの

「あなたが今後も日本語を続けるために、何が必要ですか」という 18 項目の質問に「とても重要」、「少し重要」、「あまり重要でない」、「全く重要でない」の 4 つの選択肢から選んで答える。「とても重要」に多く回答があった項目はレベルを問わず「3.旅行に役立つこと」、「4.自分の趣味（アニメ、ゲームなど）に役立つこと」、「17.自分にやる気があること」、「18.日本や日本語自体に魅力があること」の 4 項目であった。N3 の協力者は「とても重要」に「1.就職、進学などに役立つこと」、「7.日本語や日本文化に触れる機会があること」、「8.日本人と交流する機会があること」に回答が多かった。一方、「あまり重要でない」項目としては、レベルを問わず「6.奨学金や CEF など金銭的援助があること」、「9.スピーチコンテストなど実力を披露できる機会があること」の 2 項目であった。また、「11.一緒に勉強する友達や仲間がいること」では N3 と N5 の協力者、「15.先生、上司、友達などに評価されること」には N5 の協力者の回答が少なかった。

表 4 日本語継続に必要なもの

項目	レベル	とても重要	少し重要	あまり重要でない	全く重要でない
1. 就職、進学などに役立つこと	N3	103	90	33	6
	N4	81	92	48	16
	N5	34	45	40	3
2. 試験に合格でき、資格が取れること	N3	90	104	33	5
	N4	79	106	41	11
	N5	38	53	27	4
3. 旅行に役立つこと	N3	130	96	4	2
	N4	124	102	9	2
	N5	69	50	1	2
4. 自分の趣味（アニメ、ゲームなど）に役立つこと	N3	148	72	10	2
	N4	124	98	12	3
	N5	66	45	8	3
5. 将来、役に立たなくても楽しめること	N3	85	90	49	8
	N4	72	122	37	6
	N5	31	73	11	7

2017年香港の日本語学習者背景調査

項目	レベル	とても重要	少し重要	あまり重要でない	全く重要でない
6. 奨学金やCEFなど金銭的援助があること	N3	26	50	106	50
	N4	23	68	89	57
	N5	28	34	40	20
7. 日本語や日本文化に触れる機会があること	N3	120	99	11	2
	N4	96	130	10	1
	N5	50	64	6	2
8. 日本人と交流する機会があること	N3	121	97	12	2
	N4	105	109	20	3
	N5	51	60	11	0
9. スピーチコンテストなど実力を披露できる機会があること	N3	11	28	122	71
	N4	7	29	121	80
	N5	6	17	64	35
10. 日本語の上達を実感できること	N3	99	115	15	3
	N4	90	130	14	3
	N5	47	63	9	3
11. 一緒に勉強する友達や仲間がいること	N3	28	67	94	43
	N4	22	87	85	43
	N5	15	43	45	19
12. ひとりで勉強できる教材や環境（インターネットなど）が充実していること	N3	63	111	48	10
	N4	53	136	42	6
	N5	31	53	32	6
13. よい学校や機関があること	N3	51	104	61	16
	N4	53	145	32	7
	N5	29	63	24	6
14. 家族、先生、友達などのサポートがあること	N3	43	102	64	23
	N4	27	126	67	17
	N5	22	51	34	15
15. 先生、上司、友達などに評価されること	N3	40	94	73	25
	N4	24	103	79	30
	N5	23	39	45	15

項目	レベル	とても重要	少し重要	あまり重要でない	全く重要でない
16. 自分のペース（進度）で勉強できること	N3	81	126	22	3
	N4	71	143	21	2
	N5	37	72	11	2
17. 自分にやる気があること	N3	121	102	6	3
	N4	117	113	6	1
	N5	65	54	1	2
18. 日本や日本語自体に魅力があること	N3	149	72	10	1
	N4	131	97	6	3
	N5	64	51	4	3

5.2.3 日本語学習の意義

「日本語を勉強することについて、あなたはどのような意義があると思いますか」という質問には、自由記述で回答された単語、文からキーワードを抜粋した。最も多く記述されたキーワードはレベルを問わず「日本文化を理解する」であった。以下、「趣味」、「日本人とのコミュニケーション」、「もっと多くのスキルを身に付ける」などであった。そのほか「自己充実」、「人生の意義」、「目標や夢を叶える」、「自信がつく」、「自己にチャレンジする」、「未知の世界を探求する」などがあった。

表5 日本語学習の意義

キーワード	N3	N4	N5
日本文化を理解する	33	49	17
趣味	31	31	17
日本人とコミュニケーション	24	19	15
もっと多くのスキルを身に付ける	24	23	6
おもしろい	15	12	11
仕事に必要	15	12	4
自己充実	3	18	5
旅行に便利	7	11	6
自己にチャレンジする	11	5	4
アニメと漫画の内容を知る	8	8	2

2017年香港の日本語学習者背景調査

キーワード	N3	N4	N5
使い道が広い	5	8	3
もう一つの外国語をマスターできると プラスになる	10	4	0
学習過程を楽しむ	2	6	2
人生の意義	6	2	0
未知の世界を探求する	3	2	3
目標や夢を叶える	6	1	0
好きなアイドルを理解できる	5	1	0
重要	3	1	2
自信がつく	3	1	1
日本が好き	3	1	0
日本人と知り合いになる	1	0	1
日本語の発音は綺麗	2	0	0
移民	0	2	0
日中関係を知る	0	1	0
試験	0	1	0

6. まとめ

6.1 日本旅行中の日本語の使用機会場面

日本旅行のときの日本語使用機会場面について、N3の協力者は「1.買い物するとき」、「2.食事をするとき」、「5.街中で（道を探すときなど）」の場面において「とてもある」と答えていた。N4、N5レベルでは日本語を使用する機会が少なかったが、N3レベルでは各場面でより有用な情報を得るためなど、積極的に日本語を使用していることが推測できる。もちろん日本語を使わずとも買い物、食事、道を探すことなどはできる。ただ、英語などほかの言語があまり通じないと予想される日本旅行の場面では、日本語を使用することによって、自分が欲しいものや情報がより容易に、効率よく獲得されるであろう。一方、「6.コンサートなどイベントに参加するとき」、「7.日本の友達と会うとき」、「8.体験教室（和菓子作り、浴衣など）に参加するとき」は日本語を使う機会場面は「全くない」という回答が多かった。その理由としては、それらの場面に接する機会が少ないのかもしれない。ただ、すべての場面で「とてもある」と答えたのはN3の協力者だったことは、レベルによって日本語使用機会に影響があると考えられる。

6.2 日本語学習の継続に必要なもの

日本語学習の継続に必要なものとして「とても重要」と選ばれた項目は、全レベルで「3.旅行に役立つこと」、「4.自分の趣味（アニメ、ゲームなど）に役立つこと」とN3の協力者の「1.就職、進学などに役立つこと」であり、「役立つこと」が重要であることが確認された。これは山下ほか（2017）の学習動機の要因である「実用的価値認識」と述べられているものと共通している。また、N3の協力者は「とても重要」に、「7.日本語や日本文化に触れる機会があること」、「8.日本人と交流する機会があること」に回答が多かったことは、瀬尾（2011）が概念化した他者との「つながり」と同様であると考えられる。そして、「17.自分にやる気があること」を選択した協力者が多かったが、「やる気」を高めるために、日本語教育関係者は何ができるであろうか。

6.3 日本語学習の意義

日本語学習の意義について、最も多く記述されたキーワードはレベルを問わず、「日本文化を理解する」であった。6.2「日本語学習の継続に必要なもの」として「役立つ」に関連した項目が多く選択されていたが、自由記述において「役立つ」というキーワードは現れなかった。そのほかに「自己充実」、「人生の意義」、「目標や夢を叶える」、「自信がつく」、「自己にチャレンジする」、「未知の世界を探求する」などがみられることから協力者にとって道具的な日本語の意義は低いと思われる。

ギブソンは「学習が進むにつれ日本に対する理解を深め、日本文化や日本語母語話者との心理的距離をさらに縮めたいという気持ちが強くなる課程がみられた」（2009：187）と述べている。本調査でもレベルが上がるにつれ、より日本人との交流や日本語使用機会が増え、日本語文化を理解する、日本人とコミュニケーションするという日本語学習の意義とつながっているのではないかと考えられる。

7. おわりに

日本語レベルが高くなると、その使用機会場面は増え、日本語を学習する意義も交流への期待が大きくなる。瀬尾（2016）は、香港における学習者のさまざまな生活、多様な学びを受け容れ、言語習得のみを目指す日本語教育からの脱却を提案している。学習者の多様化ということばが注目され久しいが、やはり言語の習得から展開される学習者の世界の広がりや支援していく必要があるのではないだろうか。

また、日本語教師、教育機関は、日本語学習を提供する立場として、具体的な文法や表現を教えることに加え、さまざまな場面において学習者自身が対応できるストラテジー能力の養成にも力を入れるべきではないか。そして、それが言語習得から学習者の世界を広げる支援にもつながるのではないかと考える。学習動機を

2017年香港の日本語学習者背景調査

高めるための調査において岩本（2010）は、「学習支援者の存在」、「自己効力感」、「成功体験」、「自律学習」が大変重要な役割を担っているとしている。本調査結果をもとに日本語教師として、日本語教育機関として、学習者に提供、支援できることは何かそれぞれが再考する機会となれば幸いである。

本調査ではレベルの違いによる日本語使用機会場面などが明らかになったが、調査対象者は N5、N4、N3 レベルのみであった。今後の課題として、さらに N2、N1 レベルを対象とした調査を実施したいと考える。

【謝辞】

日本語能力試験協力委員会のメンバーである以下の方々には貴重なご提案やご助言をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

（名字の日本読みあいうえお順）

杉田 雅彦 在香港日本国総領事館広報文化部長

趙 達栄 香港日本文化協会副会長

陳 志誠 元香港城市大学教授

余 均灼 元香港中文大学教授

参考文献

- 板井美佐(2001)「香港における中国人学習者の日本語学習に対する動機(BF)、学習 ST 及び学習活動上の好みに関する調査：香港 4 大学機関の調査から」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』16,83-104
- 岩本尚希 (2010)「外国語学習者の学習継続要因に関する一考察：言語学習ヒストリーから」『桜美林言語教育論叢』6,29-43
- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志 (2013)「香港の日本語能力試験受験者減少の要因を探る」『日本學刊』第 16 号,233-246
- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志 (2014)「香港の日本語学習者減少の要因－調査報告－」『日本學刊』第 17 号,107-120
- ギブソン壽美子 (2009)「香港における社会人の日本語学習動機の一研究－動機の変化を中心に－」『第 8 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム会議録 アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究』182-188
- 木山登茂子・中野貴子・周宏陽・上田早苗・望月貴子・蘇凱達・青山玲二郎 (2011)「2010 年香港日本人背景調査報告」『日本學刊』第 14 号,176-195
- 国際交流基金 (2013)「日本語教育機関調査・2012 年海外の日本語教育の現状」
- 小玉博昭 (2017)「競合言語としての韓国語-香港における日本語教育との比較から-」『日本學刊』第 20 号,32-46
- 瀬尾匡輝 (2011)「香港の日本語生涯学習者の動機付けの変化－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から探る－」『日本學刊』第 14 号,16-39
- 瀬尾匡輝・陳徳奇・司徒棟威 (2012)「なぜ日本語学習をやめてしまったのか－香港の社会人教育機関の学習者における動機減退要因の一事例－」『日本學刊』第 15 号,80-99
- 瀬尾悠希子 (2016)「日本語から韓国語へ移行する学習者達－香港の成人学習者へのインタビューから－」『日本學刊』第 19 号,49-63
- 日本政府観光局<https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/170117_monthly.pdf>
<https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/marketingdata_tourists_after_vj.pdf>
- 山下直子・梁安玉・劉礪志・李澤森・李夢娟 (2016)「2015 年香港日本語学習者背景調査報告」『日本學刊』第 19 号,185-197
- 山下直子・梁安玉・劉礪志・李澤森・李夢娟 (2017)「2016 年香港日本語学習者背景調査報告－年少者と成人の学習動機－」『日本學刊』第 20 号,117-124